

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 35

川の思い出

徳島県 那賀町長
くさか まさたか
日下 正隆



川と言えば、子供の頃を思い出す。
子供の頃、よく川で遊んだ思い出である。
近所の子供たちと一緒に、朝から夕方まで川で遊んだ。
特に、夏休みになれば、毎日のように川へ行った。
深みに飛び込んだり、白い石を投げて、川底に沈んだ石を拾うのを競ったりした。
川で魚を捕まえたり、釣りをしたりした。
楽しい、懐かしい思い出としてよみがえる。
流れに流され、足がつったりして溺れた。
苦しいなかを死にものぐるいで泳いだ。
近くの子が助けてくれたりした。

これらの思い出は誰もが持っている思い出である。
たとえいくつになっても、このことは忘れないだろう。

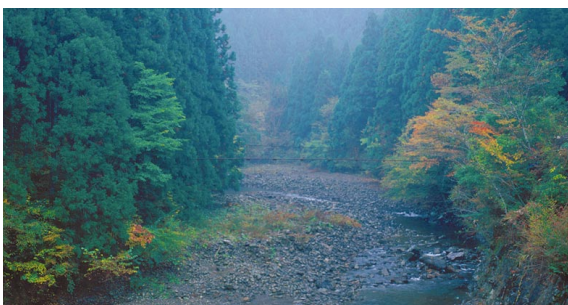
今は、川で泳いでいる子は、あまり見かけなくなった。
川からは、子供たちのはしゃぎ声が聞こえなくなった。
川の瀬音だけが聞こえて来る。
よけい、昔の思い出が沸き起こってくる。

川を語り継ぐことは、我々の年代にしか出来ないことだ。

子供たちや、孫たちに、昔の川を語り継ごう。
少年のように眼を輝かせて、川を語ろう。
恋人に語るように、川の話をしてよう。

川の思い出は、私の生きた証。
それぞれの時代を生きた、人々の宝物。

川の話をしてよう。子供たちの未来のために。



海川谷川のみみじ



ルート195号線から那賀川を望む



川口ダム湖の桜並木



那賀川の景勝「驚敷ライン」